

学校便り

プラハ日本人学校

TEL : 233 340 000

FAX : 233 322 424

Email : gakko@jpschool.cz

No.923 2018/10/2

JAPONSKÁ ŠKOLA V PRAZE

VLTAVA

学校教育目標

「自ら学び共に学ぶ、豊かな心と国際性あふれる たくましい児童・生徒の育成」

目指す子ども像

かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子

ヤングプラハ音楽鑑賞教室

9月18日(火)に、ヤングプラハ音楽鑑賞教室がプラハ日本人学校で開催されました。ヤングプラハのご案内と鑑賞申し込みの時に、3人の演奏者の方々のご紹介をさせていただきました。詳しくはそのVLTAVAをご覧ください。チェロの松原・孫 ナタンさん、バイオリンのロマン フラニチカさん、ピアノのミロスラフ セケラさんでしたが、3名の方は当日初めて会われたそうです。あとでその話を聞いて、その息の合った演奏に驚かされました。また、3人ともに口をそろえて、日本人学校の子どもたちの前で演奏するのがとても楽しみで、演奏していて楽しかったと言っていました。子どもたちの鑑賞態度もほめていただきました。



ピアノのミロスラフ セケラさんは、2回目の日本人学校での演奏なので、この日を楽しみにしていたと言っておられました。バイオリンも弾けて、その才能が故に6歳の時に映画「アマデウス」のモーツァルトの子ども時代を演じる子役として出演された経験をお持ちだとか。ピアニストとして輝かしい経歴をお持ちです。帰り際には、廊下にあった3年生の夏休み作品に興味深げに見ておられ、息子に見せてあげたいとおっしゃっていました。2人の息子さんのパパです。

バイオリンのロマン フラニチカさんは、日本人のお母さんといっしょにおられるのをたびたび見かけました。お母様をととても大切にしておられる優しいお人柄だと思いました。私が話かけると、懸命に理解して日本語で応えようとしていらっしゃる姿が印象的でした。バイオリニストとして、数々のコンクールで優勝、入賞されています。現在、プラハフィルハーモニー楽団のバイオリニストとして活躍中です。

チェロの松原・孫 ナタンさんは、プラハ日本人学校小学部の卒業生です。卒業後、インター校へ進学し、現在はアメリカの大学で数学とチェロを勉強している大学生です。本当は、物理が好きなのだとか。理科系は、実験を伴うためチェロを練習する時間が少なくなるので、数学を勉強しているとおっしゃっていました。大学の授業が始まるので、9月18日の日本人学校での演奏会への出席は難しいと言われていたそうです。ヤングプラハの安東事務局長さんが、松原さんの大学の学長宛てに演奏会出席を上申する手紙を書いていただいて、演奏が可能になったと聞いています。

多くの関係者のみなさまのあたたかいご支援のもとに、今年もプラハ日本人学校でのヤングプラハ音楽鑑賞会が開催され、子どもたちは、クラシック音楽のすばらしさに触れる機会をいただきました。

毎年、お世話をいただいているフィンダ志保子様をはじめ、ヤングプラハのみなさまにお礼を申し上げます。



【松原さんと中学部生徒との交流会】



中学部生徒との交流会を開き、松原さんのお話を聞きました。「日本人学校では、行事などで、みんなで団結して物事に取り組むこと」を学んだとおっしゃっていました。そして、それが日本人学校の良さなのではないかとおっしゃっていました。

「なぜたくさんの先生に音楽を習うのか。」という質問に対しては、「同じ曲でも、それぞれみんな違うスタイル」を持っていて、それらを学び「自分のスタイルをつくっていきたい。」
「ヨーロッパの音楽の歴史は長い。」

しかし、「アメリカにも、いろいろな良い先生がいる。」と自分の学びを追求する姿勢を説明してくれました。

最後に、「楽しむ心を忘れないこと」が大切であるとおっしゃっていました。簡単にできそうでできない、とても難しいことのようにも思いました。でも、日本人学校のみんなが、松原さんのように楽しむ心を忘れないでしあわせになって欲しいと思いました。